

# 体育科・保健体育科における教科カリキュラムの編成に関する研究

－運動に関する原則や概念の理解を深める系統的な学びを意図して－

片山 径介 (静岡大学教職大学院)

## 1. 目的

本研究の目的は、新学習指導要領における見方・考え方を鍛えるという視点から、体育科の教科カリキュラムの在り方を問い直し、編成の実現に向けての具体的な課題について示唆を得ることであった。

## 2. 研究方法

### 1) 体育科の年間指導計画の実態調査

S県内K地区所属の全ての小中学校の年間指導計画をデータで収集し、分析を行った。

### 2) 体育科の教科カリキュラム編成の原理の探究

見方・考え方を鍛える教科カリキュラム編成の在り方を探究し、それを基に、体育科の教科カリキュラム編成の原理を明らかにした。

### 3) 体育科の教科カリキュラム編成についての検討

S県内K地区所属の指導主事及び小中学校教諭の各所属先で4回ずつの検討会を行った。

## 3. 結果と考察

### 1) 体育科の年間指導計画の実態調査

分析対象全ての年間指導計画から得られる情報は、各学年の何月にどの単元を何時間扱いで行うのかにとどまり、その単元で何を学ばせるのか、どの学年で何が追究され、どのように積み上がっていくのかという学びの系統性を読み取ることはできなかった。

### 2) 体育科の教科カリキュラム編成の原理の探究

見方・考え方を鍛えるとは、既存の知識構造を原則や概念の理解を通して変革していくことである。それは、知識同士の結び付きのありようが、その教科等が持つ独自の意味のある構造へと組み変わり、洗練されていくことと捉えられた。

学習の鍵となる原則や概念の理解を系統的に深めていくことを学習の軸として設定し、学年の発達段階に応じた理解を積み重ねていくことが、見方・考え方を鍛える教科カリキュラム編成の原理となる(図1)。

体育科の教科カリキュラム編成においては、運動種目を見方・考え方を鍛えるために利活用するイグザンプルとして捉える。そして、子どもたちに理解を深めさせていく価値のある運動種目に内在する仕組みに含まれる運動に関する原則や概念を抽出する。それを学習内容の中核に据え、学年の発達段階に応じてその理解を深めていく過程が整理された。

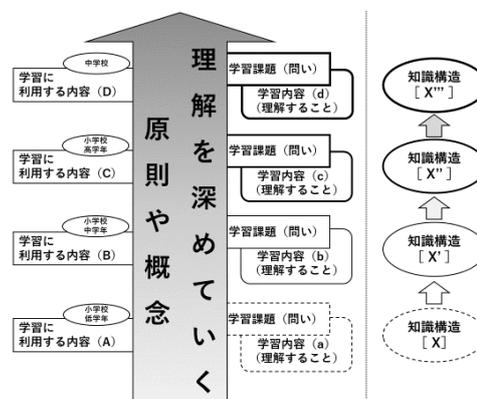


図1 見方・考え方を鍛える教科カリキュラムの構造

### 3) 体育科の教科カリキュラム編成についての検討

まず、年間指導計画の問題点を議論し、学びの系統性を読み取ることができない年間指導計画しか存在していないことが問題として認識されていないことが明らかとなった。

次に、新しい教科の目的である見方・考え方を鍛える授業への足場の転換を図ることについて議論した。しかし、運動を行うことや運動技能を身に付けることを目的としている現状の体育授業は、体育という枠組みの中だけで考えられている。全ての教科共通の目的に体育科として迫るといった視点がほとんどないことが捉えられた。

具体的な教科カリキュラム検討では、学習内容に向かうための問いを立てる際に「どうすれば、上手くできるか」という運動技能の向上を目指すための問いを構想する場面が多く見られた。また、運動に関する原則や概念がどのようなものなのかを捉えることも困難であり、資質・能力を身に付けるということへの理解の難しさがあることが見出された。

このようなことから、運動を行うことや運動技能を身に付けることを目的とした従来型の体育授業の枠組みから外に出て、俯瞰的に考える必要があるものの、運動種目主体の考え方が根強く、見方・考え方を鍛える授業へ足場の転換を図ろうとする意識の薄さの問題の解決が急務と考えられた。

## 4. 結論

資質・能力を身に付ける(見方・考え方を鍛える)ための体育科の教科カリキュラムの編成は、従来型の教科観からの脱却を求めていると考えられた。